令和８年度　第５回倫理委員会議事録

１．日　時　　令和８年９月 25 日（金）

開会：14 時 30 分　　閉会：15 時 50 分

２．場　所　　10 階大会議室(中央)

３．出席者　　①委員（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）

学内委員：　守屋文夫（委員長)、小野敦（副委員長)、山本健一郎（副委員長)、
石田実知子、吉村洋輔、福意武史、時田春樹、伊禮功、竹井泰孝、
小川武人、松本義信、石本恭子、小玉京士朗、

学外委員：林千加子

②委員（倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者）

学内委員：瀧川真也、中川智之、田中伸代、青木陸祐

③委員（一般の立場の者）

学外委員：難波哲子

以上 19 名、内 学外委員２名

委任者　岡本宣雄、河本けい、渡辺裕一、本野勝己、望月精一、宮川健、國安勝司、森脇正

以上８名

４．議事の経過及び結果

守屋委員長が議長となり、19 名の出席、８名の委任により、倫理委員会規程第５条に定める定員数に達したので、開会する旨を宣した。審議要領及び結果は次のとおりである。

Ⅰ　議題

（１）倫理審査

【受付番号　26-045】

課題名：　熱可塑性ギプス包帯を用いた短下肢装具の開発

議案の審議に先立ち、研究責任者から研究の概要、倫理的配慮と対策、研究の実施計画等について説明が行われた。次いで質疑応答及び指摘がなされ、審議の結果、指摘事項を修正することとされた。

＜審査結果＞

継続審査（簡便な審査）

＜指摘事項＞

以下の指摘を修正すること。

介入研究となるため、UMIN（大学病院医療情報ネットワークセンター）に登録を行うこと。

研究計画書

・研究方法

Numerical Rating Scale の４以上の痛みについて、どのように痛みの確認を行うのか具体的に記載すること。

・予測されるリスク

疼痛や皮膚トラブルが生じた時にどのように対応を行うかを具体的に記載すること。また、資料１　6. の内容と統一すること。

資料１

6. 研究へ参加することにより生じる負担、予想されるリスク及び利益

疼痛や皮膚トラブルが生じた時にどのように対応を行うかを具体的に記載し、研究計画書の予測されるリスクの内容と統一すること。

【受付番号　26-046】

課題名： 失語症者の談話データベース AphasiaBank 日本語版の拡充とデータ駆動型研究への展開

議案の審議に先立ち、研究責任者から研究の概要、倫理的配慮と対策、研究の実施計画等について説明が行われた。次いで質疑応答及び指摘がなされ、審議の結果、指摘事項を修正することとされた。

＜審査結果＞

継続審査（簡便な審査）

＜指摘事項＞

以下の指摘を修正すること。

・倫理審査申請書

倫理審査申請書の所属を川崎医療福祉大学から言語聴覚療法学科に修正すること。

添付資料に資料番号を付し倫理審査申請書（様式 1）の添付資料に資料番号を記載すること。

研究計画書

・多機関共同研究等

≪共同研究機関以外の、新たに試料・情報を取得し、研究機関に提供のみを行う機関(研究協力機関)≫

該当しないため記載事項を削除すること。

・研究方法

一般社団法人ことばの道及びデイサービス言葉のかけ橋は、施設長の承諾を得る旨を記載すること。

一般社団法人ことばの道及びデイサービス言葉のかけ橋への説明及びデータ収集を誰が行うのかを追記すること。

失語症者から取得するデータについて具体的に記載し、解析内容を記載すること。

・保管と廃棄

研究内容に沿って上2箇所のチェックをとること。

・試料（検体）の利用

既存の試料を用いるのチェックをとり、該当なしにチェックをすること。

・情報の利用

該当なしのチェックをとること。

・他機関との試料・情報の提供に関する事項（トレーサビリティの確保）

AphasiaBank への登録とその内容について記載すること。

説明書（健常者用・失語症者用）

2.研究機関の名称及び研究責任者の氏名

＜多機関共同研究の場合＞の記載事項を削除すること。

12.試料・情報の保管及び廃棄の方法

研究計画書の「保管と廃棄」内容と統一すること。

＜試料・情報＞の試料を削除すること。

17.経済的負担及び謝礼

謝礼はお渡しすることとなっているため、謝礼の支給がないとの記載を削除すること。

21.将来の研究のために用いる可能性、他の研究機関に提供する可能性

試料を削除すること。

同意書（施設長用）

各施設長宛の承諾書として作成すること。

本文も承諾書の内容にすること。

同意撤回書（施設長用）

不要となるため削除すること。

協力者募集のチラシ

研究協力費として記載の Quo カードの金額を研究計画書の金額と統一すること。

審査依頼書　兼　研究者リスト

最新の様式に変更すること。

一括審査のため、研究責任者欄には共同研究機関の研究責任者を記載すること。

【受付番号　26-050】

課題名：　トレッドミル歩行における手すり形状の違いが片麻痺者の歩行時体幹動揺に及ぼす影響

議案の審議に先立ち、研究責任者から研究の概要、倫理的配慮と対策、研究の実施計画等について説明が行われた。次いで質疑応答及び指摘がなされ、審議の結果、指摘事項を修正することとされた。

＜審査結果＞

継続審査（簡便な審査）

＜指摘事項＞

以下の指摘を修正すること。

倫理審査申請書

・試料・情報の授受（トレーサビリティ）

他機関との試料・情報の授受は無いのチェックをとり、他機関との試料・情報の授受があるにチェックをすること。

研究計画書

・研究方法

研究参加者の主治医に参加の可否の確認を行うことを記載すること。

十河みどり院長が研究分担者から外れる場合は、病院長への承諾を得る旨を記載し、承諾書の様式を添付すること。

資料 1

研究参加者への募集文書に研究計画書に記載しているリスクを記載すること。

研究への参加について主治医に参加の可否の確認を行うことを記載すること。

資料 2

6. 研究へ参加することにより生じる負担、予測されるリスク及び利益

研究計画書に記載しているリスクを追記すること。

審査依頼書　兼　研究者リスト

最新の様式に変更すること。

十河みどり院長の教育・研修欄を記載すること（分担研究者から外れる場合は不要)。

【受付番号　26-052】

課題名： 運動負荷時のマルチモーダル生体情報を用いた短期心拍予測 AI モデルの開発

議案の審議に先立ち、研究責任者から研究の概要、倫理的配慮と対策、研究の実施計画等について説明が行われた。次いで質疑応答及び指摘がなされ、審議の結果、指摘事項を修正することとされた。

＜審査結果＞

継続審査（簡便な審査）

＜指摘事項＞

以下の指摘を修正すること。

倫理審査申請書

・研究属性

介入の有無：有のチェックをとり、無にチェックをすること。

侵襲度：軽微な侵襲有のチェックをとり、侵襲無にチェックをすること。

研究計画書

・研究方法

ロードバイク測定でのコース内容（負荷の変化）を具体的に記載し、無理のない範囲で実施する旨を追記すること。

・予測されるリスク

対策に健康被害が生じた際の対応を具体的に追記すること。

・個人情報等の取扱い

要配慮個人情報のチェックをとり、具体的な内容に記載されている事項を削除すること。

・保管と廃棄

研究成果発表のもととなった研究資料等は電子化し、当該論文等の発表から 10 年間保管した後に適切に廃棄のうえ、破棄記録を残すのチェックをとること。　※最終発表の研究から 10 年

資料 1

12. 試料・情報の保管及び廃棄の方法

研究計画書の「保管と廃棄」の内容と統一すること。

21.将来の研究のために用いる可能性、他の研究機関に提供する可能性

≪将来の研究に利用する場合≫を削除すること。

資料5

削除すること。

【受付番号　26-058】

課題名：膝部動揺の能動的制限下での立位練習が高齢者の立位姿勢制御能力に及ぼす影響

議案の審議に先立ち、研究責任者から研究の概要、倫理的配慮と対策、研究の実施計画等について説明が行われた。次いで質疑応答及び指摘がなされ、審議の結果、指摘事項を修正することとされた。

＜審査結果＞

継続審査（簡便な審査）

＜指摘事項＞

以下の指摘を修正すること。

研究計画書

・研究方法

実験前に行うバイタルサインの確認内容を具体的に記載すること。

同意を得た参加者に利用者名簿で現病歴及び既往歴等の確認を行い、研究への参加の可否の判断を行うことを追記すること。

・個人情報等の取扱い

要配慮個人情報にチェックをいれること。

資料1

参加の場合、利用者名簿で現病歴及び既往歴等の確認を行い、参加の可否の判断を行う旨を記載すること。

6.予測される身体的苦痛と対策

わかりやすく具体的な文面に修正すること。

7.謝金を謝礼に修正すること

資料2

5.研究対象者として選定された理由

選定理由を記載すること。

同意後に、利用者名簿で現病歴及び既往歴等の確認を行い、不可の判断の場合には参加できない旨を記載すること。

審査依頼書　兼　研究者リスト

最新の様式に変更すること。

研究責任者欄には共同研究機関の研究責任者を記載すること。

Ⅱ 報告

(1)　新規申請通常審査結果について、次の３件が承認された旨報告された

1	26-029	医療福祉学専攻	指導教員	諏訪　利明	視覚的振り返りを通して就労準備段階の ASD 成人が学習スタイル理解を深める過程
2	26-030	医療福祉学科	准教授	諏訪　利明	自閉スペクトラム症の幼児に対する FITT プログラム（短縮版）の適用と効果
3	26-034	健康体育学科	助教	前岡　優里	アーティスティックスイミング（AS)が間質液中のグルコース値に及ぼす影響

(2)　新規申請迅速審査結果について、次の 19 件が承認された旨報告された

1	26-008	健康体育学科	助教	濱田　大幹	水泳授業における安全管理と指導に関する研究
2	26-011	保健看護学専攻	指導教員	富田　早苗	精神疾患を有する方の不眠を判断するためのアセスメントツール開発におけるパイロットスタディ
3	26-024	医療福祉学科	講師	柞磨　由起	教育現場におけるヤングケアラー支援の課題に関する調査研究
4	26-025	視能療法学科	教授	米田　剛	視線解析技術を応用した自動立体視検査装置の信頼性および妥当性に関する検討
5	26-026	言語聴覚療法学科	准教授	兒玉　成博	若年者の発声および呼吸機能における基準値の検討
6	26-027	川崎医療短期大学 医療介護福祉学科	教授	山田　順子	回復期リハビリテーション病棟で働く介護福祉士に必要な医療知識と介護福祉教育の検討
7	26-028	臨床栄養学専攻	指導教員	松本　義信	女子運動部員のエネルギー不足の実態とその影響について
8	26-031	医療データサイエンス学科	准教授	本野　勝己	高齢者の健康管理意識の地域差に関する調査
9	26-032	臨床栄養学科	助教	小椋　いずみ	高齢者の排便におけるビフィズス菌有用性の検討
10	26-033	臨床心理学専攻	指導教員	髙尾　堅司	Positive Solitude　と自我同一性が推しへの同一視に及ぼす影響
11	26-035	理学療法学科	教授	小原　謙一	車椅子片足駆動時に生じる臀部ずれ力の駆動側と非駆動側の差に関する研究
12	26-036	理学療法学科	教授	小原　謙一	椅子座位での骨盤後傾角度が背もたれに接する脊柱頂椎部に生じるずれ力に与える影響
13	26-037	臨床心理学科	教授	髙尾　堅司	賞賛獲得欲求・拒否回避欲求及び間接的自己表現傾向が装飾行動意図に及ぼす影響
14	26-038	理学療法学科	教授	小原　謙一	椅子上安楽座位における骨盤部後方支援が臀部ずれ力に及ぼす影響

15	26-039	理学療法学科	教授	小原　謙一	電動車椅子への身体支持具の違いが凹凸路面走行中の身体振動と臀部ずれ幅に与える影響
16	26-041	言語聴覚療法学科	教授	塩見　将志	吃音者の感情・態度・行動を測定する尺度の開発
17	26-042	保健看護学専攻	指導教員	石田　実知子	自傷経験のある青年期の人を地域で支える保健師の実践項目の開発
18	26-044	作業療法学科	准教授	金山　祐里	農福連携に取り組む障害者福祉施設の現状と課題　-作業療法士に期待される役割の検討-
19	26-048	医療保育学科	准教授	森本　寛訓	災害ケースマネジメントと職域支援の統合に関する専門家の認識と実践知の検討

(3)　計画変更申請迅速審査結果について、次の９件が承認された旨報告された

1	19-106	言語聴覚療法学科	教授	時田　春樹	高次脳機能障害者が正しく理解することができるピクトグラムの特徴について
2	22-001	臨床栄養学科	助教	四元　晴輝	高校運動部員の食事の質に関連するコンディション指標の探索
3	24-004	作業療法学科	准教授	金山　祐里	フレイル高齢者を対象としたフレイル改善アセスメントシートの作成
4	24-077	医療福祉学科	講師	山本　茜	進路選択時の高校生及び保護者のニーズに応える情報提供が進路選択行動に与える影響
5	25-080	医療福祉学専攻	指導教員	升野　光雄	遺伝医療と福祉の連携構築　-認定遺伝カウンセラーと医療ソーシャルワーカーの場合-
6	25-084	臨床工学科	助教	高谷　健太	データ駆動型リハビリテーションを支える歩行解析システムの開発と基盤構築
7	26-001	健康体育学科	教授	諏訪　英広	コミュニティ・スクールに対する保護者・地域の認知・参画に関するインタビュー調査
8	26-011	保健看護学専攻	指導教員	富田　早苗	精神疾患を有する方の不眠を判断するためのアセスメントツール開発におけるパイロットスタディ
9	26-014	健康体育学科	教授	諏訪　英広	コミュニティ・スクールに対する保護者・地域の認知・参画に関するアンケート調査

Ⅲ　その他

１．次回からの倫理審査について

守屋委員長から、次回からの通常審査について以下のように変更する旨が説明された。

1)　まず、倫理委員にて質問事項等の議論を行う。その議論中、研究責任者には倫理委員会会場の外で待機を依頼する。(通常審査の冒頭に研究責任者が行っていた、研究の概要、倫理的配慮と対策、研究の実施計画等についての 3 分間の説明を行わない)

2) 倫理委員の議論終了後、研究責任者を倫理審査委員会会場への入室を依頼し、質問及び確認を行う。

２.情報プラットフォームシステムワーキンググループからの報告について

現在、学外からでもアクセスできる倫理審査システムを構築中であり、次年度からの運用に向けて検討中であることが報告された。